

# 文学部

LEARN WIDER, DEEPER.



文化歴史学科

哲学倫理学専修

美学芸術学専修

地理学地域文化学専修

日本史学専修

アジア史学専修

西洋史学専修

総合心理科学科

心理科学専修

文学言語学科

日本文学日本語専修

英米文学英語学専修

フランス文学フランス語学専修

ドイツ文学ドイツ語学専修

関西学院大学

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



#KWANSEI GAKUIN

#School of Humanities

#culture and history / #psychological sciences / #literature and linguistics



## 時代が変わっても必要なものは何かを考える。

文学部の学び。「なんの役に立つのか？」そう問われることが増えてきた。

「それは儲かるのか？」多くの場合、これと同義であったりもする。

しかし、誰の何に役立つことが求められているのだろうか。そもそも「役に立つ」とはどういうことなのか。

それをしっかりと考えるのも、文学部のような基礎学問領域の重要な役目だ。

文学部で今、学ぶべきこと。それは、大学卒業後すぐに誰かのために使えるスキルではないでしょう。

すぐに役に立つことは、すぐに役に立たなくなることもある。

時代が変わっても役に立ち続けられるために必要なものは何か。それらをしっかりと考えつつ、身につけてほしい。

何よりも、自分の興味に従って存分に学び、頂を目指して歩むことが、

学生の最大の特権であることを自覚し、人間的な成長を遂げてほしいと心から望んでいる。

| #KWANSEI GAKUIN |

#School of Humanities

#learn wider, deeper / #3 departments / #11 majors



# School of Humanities.

人間の本質を追求する3学科11専修

p03 哲学倫理学専修  
Philosophy and Ethics

p04 美学芸術学専修  
Aesthetics and Arts Studies

p05 地理学地域文化学専修  
Geography and Area Studies

p06 日本史学専修  
Japanese History

p07 アジア史学専修  
Asian History

p08 西洋史学専修  
European and American History

p09 心理科学専修  
Psychological Sciences

p10 日本文学日本語学専修  
Japanese Literature and Linguistics

p11 英米文学英語学専修  
English Literature and Linguistics

p12 フランス文学フランス語学専修  
French Literature and Linguistics

p13 ドイツ文学ドイツ語学専修  
German Literature and Linguistics



## 言葉と感性を磨いて、人間と世界の本質を探求する



### 01

## 哲学倫理学

Philosophy and Ethics

### 学びのキーワード

- 01. 哲学と現代世界の関わりを考える
- 02. 人間と世界の本質を考える
- 03. 宗教・文化を学ぶ

哲学は、人間と世界に関わる様々な事柄について、言葉と感性で突きつめて原理的に考える学問です。「1+1は本当に2なのか」であれ、「他人の心を本当に理解できるのか」であれ、「AI（人工知能）は自分で考えることができるのか」であれ、様々な問いを探求します。また倫理学は善や悪、正義や不正とは何かを問う学問です。「生幸福でいられる薬があったら、あなたは飲むでしょうか。このように人間の内と外のあらゆることが哲学と倫理学のテーマです。しかも、他の学問のようにその問題に直接に取り組むのではなく、むしろ一歩下がって問題自体を問いなおすところに特徴があります。様々なことに好奇心を抱き、疑問を持ち、その解決に努力することは人間の最も基本的な姿ですから、哲学と倫理学を学ぶとは人間の本質を根底から考えなおすことだと言えるでしょう。



萩平 真以 4年生(撮影当時)

高校生の頃の哲学・倫理学のイメージは「お堅い学問」でした。が、入ってみると「日常の疑問を解いていく学問」に変わりました。卒業論文の研究では、自閉スペクトラム症の人が他人の心をどのように理解しているかを考えています。ボランティア活動で出会った方からの話や教職課程での学びにヒントを得て研究しています。同じゼミの仲間も「本当の幸せとは」「死とは何か」「絶対に正しい道徳はあるのか」など日常で感じる少しの疑問に対する自分なりの答えを、哲学や倫理学の力をかりて、見つけようとしています。



View  
more!

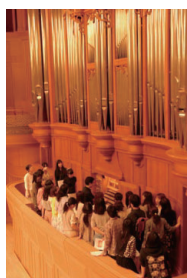


## 美学芸術学

Aesthetics and Arts Studies



あなたはどのような芸術に興味がありますか。美学芸術学専修では、美とは何かという根源的な問いかけを行い、美術、工芸、音楽、演劇、映像など様々な芸術とその歴史を探究し、芸術への理解を深めます。その芸術がどうして生まれたのか、どのような意味があるのか、どのような役割があるのか、疑問をもち、問いかけてください。そして、感性を研ぎ澄ませば、芸術はあなたの問いに答えてくれるはずです。



### 美術史 教員 下原 美保 / 古川 真宏

過去的美術作品について学ぶことは、歴史的な事実を知ることだけを意味しているわけではありません。過去の人々がどのようなことを考え、感じ、想像してきたのかを知ることでもあり、現在の文化・芸術を支えているものが何であるのかを知ることでもあります。また、それは翻って私たち自身と現在を別の角度から眺めることにも通じています。卒業生は芸術の分野だけでなくさまざまな職に就いていますが、日本と世界の文化・芸術に関する知識と思考力は今後ますます必要とされていくはずです。

### 音楽 教員 小石 かつら

あなたにとって「音楽」とは、どんな存在ですか?どこかで耳にするもの、イヤホンで聴くもの、ライブ会場などで音に包まれるもの、自分が歌ったり弾いたりするもの…。古くから、洋の東西を問わず「音楽」は人と共にありました。日常の中にも、非日常の中にも、そして、それらを繋ぐ存在としても。

さて、では、「音楽」とはいったいぜんたい、何なのでしょう?「音楽学」は、音楽を考える学問分野です。

### 映像 / 舞台 教員 桑原 圭裕

演劇と映画は隣接する分野です。いずれの劇場も観客を別世界へ誘う特別な空間でした。ゆえにそれらの研究も物語構造の分析を中心に展開してきました。しかし、現在は演劇も映画もスマホやタブレットの映像として「消費」される時代です。同時に研究の対象も物語から離れて、光・影・音波など、いわば映像の物質性や触感といった視点への関心が高まっています。新たな局面をむかえている映像論を学べば、演劇や映画の見方が変わると思います。

## 芸術にふれる、本質にせまる

### 学びのキーワード

#日本絵画史 #仏像 #神社仏閣 #工芸史 #漆芸 #染織  
#西洋美術史 #現代アート #美学 #クラシック #ポップス  
#民族音楽 #映画 #アニメーション #舞台芸術



私たちが美学芸術学専修の教員です。  
それぞれの専門については下のQRコードからアクセスしてください。





03

## 地理学地域文化学

Geography and Area Studies

### 空間・場所・地域と 文化事象との関係を描き出す

学びのキーワード

- 01. 空間的多様性への好奇心を育む
- 02. 地域文化の創出を描き出す
- 03. フィールドワークを実践する

地理学地域文化学では多様な場所や文化に注目します。「地理学」とは、地図や統計、あるいは現地調査の結果を利用して、世界のさまざまな土地の環境や産業を学んでいく分野です。私たちの専修では、特に「人文地理学」の立場から、文化や社会といった人文現象を扱います。また「地域文化学」は観光や民俗、地域コミュニティなど、地域文化を扱う地理学の隣接分野の対象を含みます。この専修では、人文地理学を中心に、地域文化に関わる様々な知見の学習や、自らの現地調査などを通して、各地の状況やその描き方を学んでいきます。

特に2・3年生向けの授業科目「エクスカーション」では、関連する授業で事前学習をおこないつつ各地に赴き、時に現地調査の練習をします。さらにゼミナール（演習）を通じてスキルアップを図っていく、「卒業論文」を執筆します。各自でテーマを設定し、現地調査や文献研究によって情報を収集し、自ら地図を描いて論文を書き上げることが目標となります。



この専修では、ある場所の文化や景観に触れて「面白い」と思うことがスタート地点となります。その上で、興味深い文化や景観の変遷や現状を説明する必要があります。左下の写真は愛知県瀬戸市のもので、かつて「陶都（すえと）」と呼ばれたこの町は古くからの焼き物の産地で、焼き物を作るための道具を石垣代わりに使う家もありました。現在では海外製品に押されて焼き物の生産は減少傾向にありますが、以前からの家並みが「窯垣の小径」という観光対象になっています。



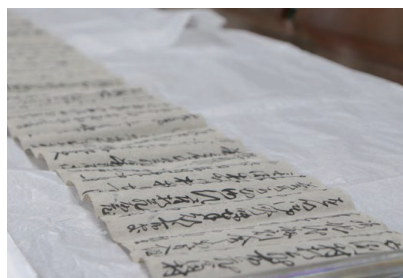
View  
more!



| #KWANSEI GAKUIN |

#School of Humanities

#Japan / #history / #antiquity / #early modern period / #middle ages



04

## 日本史学

Japanese History

### 日本史学にときめこう!

学びのキーワード

01. 過去を鏡に現代を考える
02. 研究する方法を学ぶ
03. 専門性と地域貢献

日本史学専修では、古代から中世、近世、近・現代に至るまでの日本の史実を取り扱います。列島で生きた人々は、現代に多くの生の痕跡を残しました。その過去の歴史を調べようとするとき、多様な史料が分析の対象になります。それは古文書や古記録や金石文のような文字の場合もありますし、絵巻物や肖像画のような絵画の場合もあります。また、口頭伝承のようにオーラルなものも存在します。当専修の教育では、ただ知識を得ることを目的にするのではなく、学生自らの手で歴史を研究し、叙述することに主眼をおきます。その際に鍵になるのが、初めて見る史料を正確に読解する能力と、過去の研究成果を的確に理解しまとめる能力です。専任教員は自身の専門分野から個々の学生に応じた、きめ細かい指導を行います。また豊かで多様な学びを実現するため、京阪神の主要国公立大学に所属する第一線の研究者を非常勤講師にお招きしています。



鈴木 舞奈 大学院前期課程 1年生 (撮影当時)

日本史学専修では、1・2年生の段階で日本史の基礎知識を学ぶ授業や、ゼミに向けて発表のスキルを身につける授業を履修し、3・4年生では卒業論文に向けて史料読解や論文の読み方を学ぶ授業などかなり専門的なことを行います。こういった学びの中で得られる広い視野や論理的な思考力は、複雑で多様化した現代社会を生きていく上で不変的に役立つのです。このような力を身につけられるのは日本史学専修の魅力の一つだと思います。





## 私たちの生きる 「アジア」の歴史を見つめる

05

### アジア史学

Asian History

学びのキーワード

01. アジアとの交流の跡を辿る

02. 史料から過去を学ぶ

03. グローバルな世界の成り立ちを学ぶ

「アジア」とは、ヨーロッパ以外のユーラシア大陸と周辺の島々、時代によっては北アフリカやイベリア半島も含む広大な領域を指す言葉です。その中には様々な民族が各地域に、それぞれの風土に応じて特色のある文明を築いてきました。また儒教、仏教、イスラームなど多彩な宗教に根ざす文化も花開きました。本専修ではそれら諸地域に展開した多様な文明の足跡や、それら相互の長く深い交流の歴史を学ぶことを通して、私たちの暮らす日本も含むアジアの今日と未来を考え、グローバル時代に生きていくための糧を身につけます。

歴史学の基本は史料です。本専修では漢文やペルシア語など、アジアの様々な言語による史料を深く読みこみ、そこから過去の人々の営みを紐解いていきます。そして古くからアジア諸地域との交流や文化的な影響を受けてきた関西の地で、その歴史を体感しながら自分の生きているアジアとは何かを再発見していきます。



谷口 奈穂 4年生(撮影当時)

“歴史が好き”という理由だけで、アジア史を選びました。最初は分からないことも多かったのですが、知らないことを学べる楽しさを感じることができたと思います！



池島 聡太郎 4年生(撮影当時)

この専修では、主にイスラーム世界や中国を中心に、アジアの様々な地域や時代の歴史を、基本的な知識から専門的な知識までしっかりと学ぶことができます。



山本 碧 卒業生

中国の友人からの「似ているようで違う、違うようで似ている」という言葉から、文化の違いに疑問を抱き、中国の文化を見つめ直した人々に興味を持つようになりました。



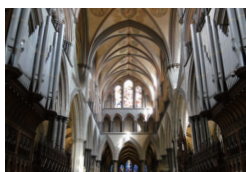
明見 翔 卒業生

「変わってるね」の言葉が学びのきっかけに。多数派・少数派とは何か、少数派はアイデンティティをどう構築するのか。そんな疑問から中国の少数民族の研究を始めました。



View more!





06

## 西洋史学

European and American History

### 過去との対話を通じて 世界の未来を見据える

学びのキーワード

01. 西洋古代・中世の文明とは何かを考える
02. ヨーロッパについて考える
03. 近現代社会と西洋との関わりを追究する

西洋史学専修はヨーロッパ史を学ぶところと思われるかもしれませんが。しかしヨーロッパには紀元前3千年紀以来の古代エジプト、メソポタミア文明からの遺産継承があり、さらにギリシア・ローマ文明はアレクサンドロス大王やローマ帝国の活動によってアジア、アフリカへと広がりました。大航海時代以降のヨーロッパ諸国の拡張に対応し、その植民地とされた地域も西洋史学の守備範囲とするなら、南北アメリカやオーストラリアをはじめとする、地球上のかなりの部分が学びの対象になります。西洋史学専修では、ヘレニズム時代のパピロニアで書かれた天文日誌、イスラームと対峙するビザンツ帝国におけるテーマ軍団、ヨーロッパ近世・近代の投資社会、ロシア帝国の大学やバルト地域の記憶といったユニークな地域、時代、テーマを研究する教員が、過去から現代へとつながる人類の歩みを明らかにし未来への舵取りを確かなものにすべく、教育に取り組んでいます。



吉川 凜 4年生 (撮影当時)

1年生では主にヨーロッパ史の概略を学び、2年生からはより狭く深い専門的なことを学んでいきます。高校生の時にはただ名前を知っているだけだった人物や出来事も、ここで学ぶことで具体性を持ち、史実として立体的に捉えることができるようになりました。西洋史のことならお任せあれの先生方と、たくさんの専門書籍に囲まれた西洋史学専修で、人々が積み重ねてきた歴史を広い視点から学び、考える楽しさを実感しています。



## 日本の私学最長の歴史を持つ、エビデンスに基づく心理学



### 学びのキーワード

#### 01. 実験の基礎を学ぶ

1・2年生は心理学の基礎知識を学びながら、実習を通して実験に臨む姿勢や実験の手法、データの集計・分析、レポートの書き方など、研究に必要な能力を身につけます。

#### 02. 国家資格「公認心理師」に対応

心理科学実践センターでは、国家資格「公認心理師」の取得を目標に、心理療法や臨床心理学的地域援助といった各種の臨床実習や臨床研究が行われています。

#### 03. 充実した実験設備：CAPS

応用心理科学研究センター（CAPS）は、実証的心理学の基礎研究およびその応用研究の成果を広く社会へ発信することを目的とした、応用心理科学研究を推進するための研究拠点です。

### 07

## 心理科学

Psychological Sciences

人間を科学的視点から捉え理解することを目指し、現代社会に生きる人間の心理的諸相について探求します。本学心理科学科は、1923年（大学昇格前）にドイツから心理学実験機器一式を導入して開設された心理学研究室を発祥としています。心理学の研究室としては日本の私学では最も長い歴史があります。数多くの実験施設や最先端機器、各種心理検査用具を完備し、実験系から臨床系まで幅広い分野の研究環境を整えています。開設時から現在まで、エビデンス（科学的根拠）に基づいて研究と教育を行い、臨床現場を含む実社会での実践も重視しています。



木戸 祐花 4年生（撮影当時）

公認心理師受験資格の取得を目指す場合は、3年生からのカリキュラムとして心理演習・心理実習の授業が始まります。カウンセリングの練習を学生同士で何度も行い、自分の発言に対して意見交換し合い、振り返ります。そして心理検査の仕方を学び、公認心理師が働く現場の実習に行きます。現場での実習学習を通して、どんな公認心理師になりたいのか、現場で必要とされている支援は何であるか、具体的にどんな支援ができるのかを考え、学びを深めています。



View  
more!





08

## 日本文学日本語学

Japanese Literature and Linguistics

学びのキーワード

01. 日本語の本質を学ぶ
02. 文学作品の魅力を学ぶ
03. 国語科教育を学ぶ

ことばと向き合い、  
感性を磨きあげる

この専修では、古代から現代までの日本語表現を手がかりとして、日本文化や日本人の心のあり方を探究します。文学作品を研究する場合は、新しく魅力的な解釈を確かな形にしていくことが求められます。日本語を研究する場合は、なげなく使われている言葉の背後にひそむ問題点を見つけ出さなければなりません。学生の皆さんには、そうした課題に取り組むことを通じて、洞察力や論理的思考力を磨いていただきたいと思っています。



堅田 愛菜 3年生(撮影当時)

2年生の春に履修した「日本語音声・音韻論」で日常生活の小さな疑問を学問的に捉えることの面白さを知りました。学びの種は身の回りに数え切れないほどあり、それら全てが日本語の本質と邂逅するきっかけとなり得ます。気付きや発見を取りこぼさない習慣は、日本語学に限らず、自分の視野を広げながら毎日を楽しく生きる上での大きな財産となりました。



畑 瑠子 2年生(撮影当時)

本を読むだけの学部、という考えがみごとに覆されたのは「日本文学史」の授業でした。文学史と聞くと、年号と作品、著者を暗記するという印象ですが、この授業は違いました。その時代の歴史を文学によって学ぶことで、現代に適用できる価値観を身につけることができたのです。それ以来、本を読むだけで終わらせずに、学んだことを用いて、誰かのために自分にできることを考えられるようになりました。



## 英米文学英語学

English Literature and Linguistics

学びのキーワード

01. 英語圏の文学作品を学ぶ

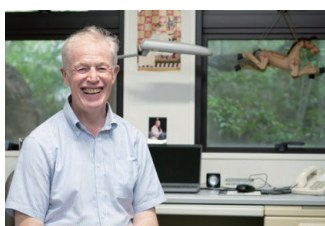
02. 言語の仕組みを学ぶ

03. 生きた英語を学ぶ

英米文学分野においては、イギリス、アメリカ(時にはカナダ、オーストラリア)の文学作品や文化の分析、解釈、批評を通して、豊かな視野と人間性への理解と洞察力を育てていきます。英語学分野においては、英語(日本語やそのほかの外国語も含まれます)という言語を理論的、数学的に分析することで、言語の性質や言語を使用する人間そのものの解明を目指します。いずれの分野においても、日ごろ誰もが使用している言語が、どのような歴史を経て、どのような慣例と多様性を持ち、どのような表現の可能性に開かれているのかを、具体的な作品や事例から研究していきます。そうすることで、言語によって表現される世界のあり方を知るとともに、言語によっては表現されない世界への関心も湧いてくるかもしれません。



英語を通じて、人間の営みと想像の世界を探究する



ダニエル・ガリモア 英米文学 教員

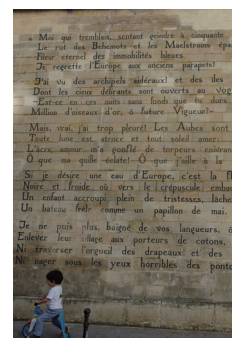
At Kwansei Gakuin I teach mainly the plays of William Shakespeare (1564-1616), and am glad to be a part of the English department's varied programme of literature courses. I believe that by studying Shakespeare's beautiful language and unique characters and situations, we can understand something of our identity and place in today's complex world.



View  
more!



フランスを学び、  
世界と自分を知る



## 10 フランス文学フランス語学

French Literature and Linguistics

学びのキーワード

- 01. フランス語の習得
- 02. 芸術としての言葉を考える
- 03. 言語を科学的手法で分析する

フランスはもちろん、世界の様々な地域で話されているフランス語を習得し、この言語の仕組みや働きを言語学的な観点から考え、長い歴史と豊かな文化・芸術をもつフランス語圏の文学を精緻に読み解く——これがフランス文学フランス語学専修での学びです。まずはフランス語の「聞く・話す・読む・書く」を基礎から学び、体系的な教育プログラムのもと、フランス語の高い運用能力を身につけていきます。ただ、外国語として学んだ言語を真に「活かす」には、その言語の歴史的な成り立ちを知り、言語表現のメカニズムを科学的に捉え、人間と言葉の多様な関わり方の結晶とも言える文学作品を歴史的・社会的背景とともに理解することも極めて重要です。人間にとって言語とは何かという根本的な問いにつながるこれらの事柄を、フランス語を通して科学的に考えるなかで、グローバルな視点をもつ、多様性に開かれた世界市民に成長することを目指します。



高垣 由美 フランス語学 教員

本専修では6名の専任教員(文学専門3名、言語学専門3名)が中心となって、学生さんを学問の世界へと誘います。高度なフランス語運用能力を基礎として、フランス語圏の文学、もしくはフランス語を対象とした言語学で卒業論文を書けるように指導します。その研究には、大学図書館を利用できますが、フランス文学、フランス語学関連の文献の充実ぶりは、歴任教員の長年にわたる努力の賜物であり、本専修の輝かしい歴史の証しです。





## ドイツ語が開く世界

### 学びのキーワード

#### 01. ドイツ語圏で学ぶ

文学部独自の「ドイツ語中期留学(ドイツ・レーゲンスブルク)」プログラムをはじめ、ドイツ語圏のさまざまな協定大学への長期・短期の留学が可能です。

#### 02. 「使える」ドイツ語力を養う

ネイティブスピーカーの授業等を通じて「聞く・話す・読む・書く」力を段階的に養成し、日常生活で使えるドイツ語、研究に必要なドイツ語の力を伸ばします。

#### 03. 文化に触れ、学びあう

ドイツ語圏からの留学生との日本語・ドイツ語の交換学習、料理の会、映画鑑賞会など、交流を通じて学びを深める機会があります。

### 11

## ドイツ文学ドイツ語学

German Literature and Linguistics

ドイツ・オーストリア・スイスを中心に広がる(ドイツ語圏)。音楽、美術、哲学、文学、科学技術、環境保護、経済大国、移民政策、宗教改革、ハプスブルク帝国、世界大戦の経験。ライン河畔の古城やアルプスの山々、ドナウ河畔の音楽の都……。様々な知的刺激を与え続けるドイツ語圏の言語・文化・社会・思想・芸術を、現在と過去を往復して学び、中欧からヨーロッパ全体、世界、さらには日本を複眼的に捉え、研究します。みなさんがドイツ語力を伸ばし、学びを深められるように、6人のエキスパート教員がサポートします。



平山 菜里 4年生(撮影当時)

高校生の頃から異文化に興味があり、大学では英語以外の言語に挑戦したいと思いドイツ語を専攻しました。入学後はネイティブの先生の授業などを通じて、たくさんドイツ語を学びました。私は現在夏の短期留学に向けて、協定校であるレーゲンスブルク大学のオンラインコースに参加し、いろいろな国の学生と学んでいます。ドイツ語を学ぶことでドイツ語圏、さらにはヨーロッパの国々が身近に感じられるようになりました。



View  
more!



| #KWANSEI GAKUIN |

#School of Humanities

#admission / #graduation / #study abroad / #employment / #life



	文学部 Instagramは こちらから
	就職情報は こちらから
	入試情報は こちらから

大学は、社会に出ていくための準備期間でもあります。この4年間に、深い専門性と広い教養を身に付けるのはもちろんのこと、様々な経験を重ねて「生きていくためのスキル」を修得することが重要です。具体的にいえば、人と接し、人間関係を作っていく実践力と創造力、そして何か困難に直面した時は、自分で考えて解決する自主性と自立性などです。

ゼミは、大学生活のホームの1つといえるでしょう。学問の基礎から学び、外に出て応用を試し、またゼミに戻ってレポートを発表したり、評価を受けたり、さらに修正を加えて研究の完成度を高めていく…。単に書物から知識を得るのではなく、自分で課題に取り組み、そして目標を成し遂げていく、その努力と成就の喜びは自信につながります。また文章化の訓練は、一定のフォーマットに沿って、情報を凝縮していくスキルにつながり、実社会での様々な場面で役立ちます。

文学部ではこうした人間の本质を追求する学びを通じて、自立した個人を育むことを目標としています。

School of Humanities.